北海道スポーツ指導者協議会主催

講演会テーマ

『可能性へのチャレンジ ～サッカー活動の中での プレーヤーズセンタード～』

講師：大岩真由美
（HKFA副会長）

■開催日：2025年3月9日（日）13:00～16:30

■会　場：北海きたえーる（講堂）

■参加者：北海道スポーツ指導者協議会会員・社会体育担当者
日本スポーツ協会公認指導者・スポーツ少年団登録指導者
スポーツ活動に関心のある方など（約１５０名）

北海道スポーツ指導者協議会の皆様
様々な種目の指導者の皆様
ご清聴ありがとうございました！

「北海道スポーツ指導者協議会」
会長　佐久間一郎様
メッセージありがとうございます！

【北海道スポーツ指導者協議会】
会長　佐久間一郎　様

北海道スポーツ指導者協議会主催の指導者研修会で
大岩様の貴重なご経験を参加者の皆様にご講演いただき
誠にありがとうございました。

大岩様のご講演は、自らのサッカー人生、
それはわが国では、前人未踏の、
国際主審・レフリーインストラクターとしての
ご活躍ですが、私としては、サッカーに関わった者
として、他の参加者には
世界的な活躍をされる人材の実践的活動について、
さらに女性の方々には、女性がスポーツに関わっていく道筋
のみならず、女性のキャリア形成のサクセストーリーとして
非常に勉強となる実践的な素晴らしいご講演でした。

私は、現在、種々の団体の役員を拝命しておりますが
そこで、是非、大岩様にご講演をご依頼することもあると存じます。
その際は、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

【現在とこれまでのご経歴】
北海道大学医学部同窓会副会長：北海道医師会：北海道内科医会会長（2023.06～）
健康スポーツ医学推進委員会副委員長：　札幌市医師会：札幌市内科医会会長
札幌市健康スポーツ医協議会会長、日本スポーツ協会公認スポーツドクター
日本医師会認定健康スポーツ医：（公財）北海道スポーツ協会：理事（2023.4.～）
スポーツ科学委員会委員（1987.4.～、副委員長：2005.4.～、委員長：2023.4.～）
女性アスリート健康サポート北海道監事・特別顧問
第一回冬季アジア大会日本選手団チームドクター（1986.02.）
（公財）北海道サッカー協会:理事・医事委員長(1985.4～2003.3)、参与(2003.4～2016.3)、
顧問(2016.4～)：FIFAワールドカップ2003 Korea-Japan・ドーピングコーディネーター
Jリーグ：National Federation Representative（2015～）

女性のキャリア形成の
サクセスストーリーとして・・・

「北海道スポーツ指導者協議会」代表の皆様
メッセージありがとうございます！

【北海道スポーツ指導者協議会】
副会長　石井　富美夫　様

女性審判の先駆けとしての苦悩と異国での経験に基づいた講演は、45年前（大学在学中）にブラジルにサッカー留学したことのある自分にとっても共通する部分もあり、大変興味深く拝聴させていただきました。

前例のないことに取り組む勇気とその実績が後世に与える影響、そして自身が取り組んできたこと全てが現在のプレーヤーズセンタードという精神に繋がっているという素晴らしい講演でした。

45年前の、ブラジルサッカー留学を思い出しました・・・

【北海道スポーツ指導者協議会】
常任理事　小関　孝徳　様

「可能性へのチャレンジ」と題し、～サッカー活動の中でのプレイヤーズセンタード～ は、まさに大岩さんの人生そのものであった事を感じました。

誰でもが何かにチャレンジするキッカケというものは、それぞれの同僚・仲間・先輩・後輩・そして多くの恩師かと思います。それが恩師からの大切な言葉「お前が歩けば道が出来る」を心に刻み、先駆者として、又、女子サッカー審判員のトップランナーとして活躍されたこと今もインストラクターとして後輩のために活躍されていることに敬意を表したいと思います。

又、大岩さんの口から「感謝」という言葉がよく聴かれますが、まさに私も今になって若干遅きに失していますが「出会える事に感謝」常に感謝の気持ちを忘れずに歩んでいます。

感謝・チャレンジ精神を忘れず挑戦し続ける！
一歩ずつ、精一杯、汗を流す！

参加された方からのメッセージもご紹介します！

やりたいことを実現させるための準備、ステップアップのための挑戦。大岩さんの熱意が周りの人たちに伝わり、巻き込み、動かしていったのだと思いました。

自己満足するだけでなく
経験を次につなげていこう
という思いがとても素敵です。

私も種目は違いますが審判員をしています。同じような思いをしている共感と、とても勇気づけられました！

指導されてた時のたくさんのお話の
中で特に感じたのは
「周りの人たちを思う心」

自分が、自分達がやりたい事、目標のために自ら考える。そして、やる。
大人（指導者）は答えにたどり着くためのプロセスを共に考える。共に学ぶ、共に輝く。
とても前向きな気持ちになりました。

サッカーとは縁遠いため、難しい話かと思いましたが、全くそんなことはなく、むしろ引き込まれていく内容でとても有意義でした。今後の指導に関わる場面で「チャレンジ」する選択肢を示せるようになりたいと思えるようになりました！

＜様々な種目のスポーツで活動をされている皆様＞　※順不同

水泳・スキューバダイビング・スポーツプログラマー・ソフトボール・スキー上級教師・スタートコーチ・アシスタントマネージャー・ボクシング・バレーボール・スポーツコーチングリーダー・ジュニアスポーツ指導員・スキー・トライアスロン・エアロビック・ラグビー・テニス・弓道・カーリング・軟式野球・ハンドボール・バドミントン・ホッケー・自転車・アーチェリー・卓球・陸上・ダンス・ゲートボール・柔道・サッカーなど

サッカーファミリーの方からもコメント頂きました！

【HKFA常務理事（札幌FA専務理事）佐賀主昌　様】

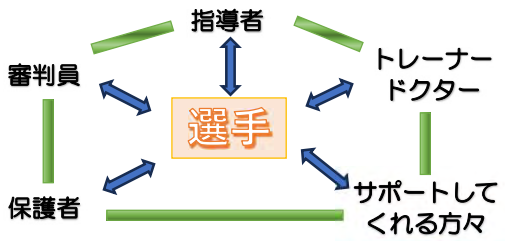
組織が自走していくためには、「納得と共感」「心理的安全性」が、必要だと考え管理職として取り組んでいます。大岩さんが、チームの監督として大切にされていたこと、正にその通りだなと感じました。
また、大岩さんが、可能性に向けてチャレンジしてくださったおかげで、今の女子審判界があること、日本を世界をかえたこと、サッカーに関わる者として、本当に感謝しかありません。
「できない理由を探すのではなく、
できる理由と可能性を探って実行する」ことの必要性を自分も忘れずに、いくつになっても、いろいろなことにチャレンジし続けたいと思いますそして、いつまでも「感謝を行動に」移せる人間でありたいと思いました。
具体的な経験談を織り交ぜ、テンポよくユーモアありの楽しく、ためになるお話でした！

【サッカー2級審判インストラクター　山下浩司　様】

大岩さんご自身の経験・体験に基づいたお話であり言葉に説得力がありました。行動に言葉があり、言葉に行動があります。その行動力、実行力は見習っていきたいところです。
また、サッカー競技以外の人のために、一つの言葉でもかつて使われていた言葉と現在用いられている用語で説明されるなど多くの方への配慮も感じました。分かっていると、つい説明を省いてしまう場面が往々にしてあるので、普段の生活の中でも意識していきたいです。
指導者として大切にされていたことが、まさに“プレーヤーズセンタード”の考え方そのものもだと思いました。まだ誰も歩んできていない道を行くには相当なプレッシャーもあったかと思います。
しかし、チャレンジにチャレンジを重ね進んでいかれたことが今の女性審判員の道しるべになっていること、多くの人との素敵な出会いによる人と人とのつながりになっていることと思います。
大岩さんのチャレンジの、その源と歩んだ道は恩師の先生のお言葉そのものですね。
これからも多くの人の「道」を照らす存在でいてください。

私が学んだ『プレーヤーズセンタード』

プレーヤーズセンタードとは？
選手を支援・取り巻く方々自身もwell-being(良好・幸せな状態）を目指しながら選手をサポートしていくという考え方と言われています
※JSPO（日本スポーツ協会推奨）



こんな風にまとめてみました･･･

選手を中心に、関わる人みんなが

『共に学びましょう！』
『共に輝きましょう！』

『出逢い』に感謝！

今回は、北海道スポーツ指導者協議会の皆様にお声がけ頂いたお陰で、普段なかなか接する機会のない異種目の指導者の方々との「ご縁」に恵まれました。

講演テーマに「プレーヤーズセンタード」を与えて頂き、恥ずかしながら初めて聴く言葉でした。
サッカー界では「プレーヤーズファースト」が主流ですが、その意味や使い方に、個人的にはあまりしっくりといってなかったのが正直な思いでした。

「プレーヤーズセンタード」の本質はまだまだ勉強不足ですが、心にスッと入ってきたのが第一印象です。自分のこれまでの経験や考え方などが、これに寄り添ったものと思い、より一層共感できました。

これからも微力ですが、私なりにサッカーへの恩返しを続けて参ります。

感謝

【報告者】大岩真由美（HKFA副会長）